

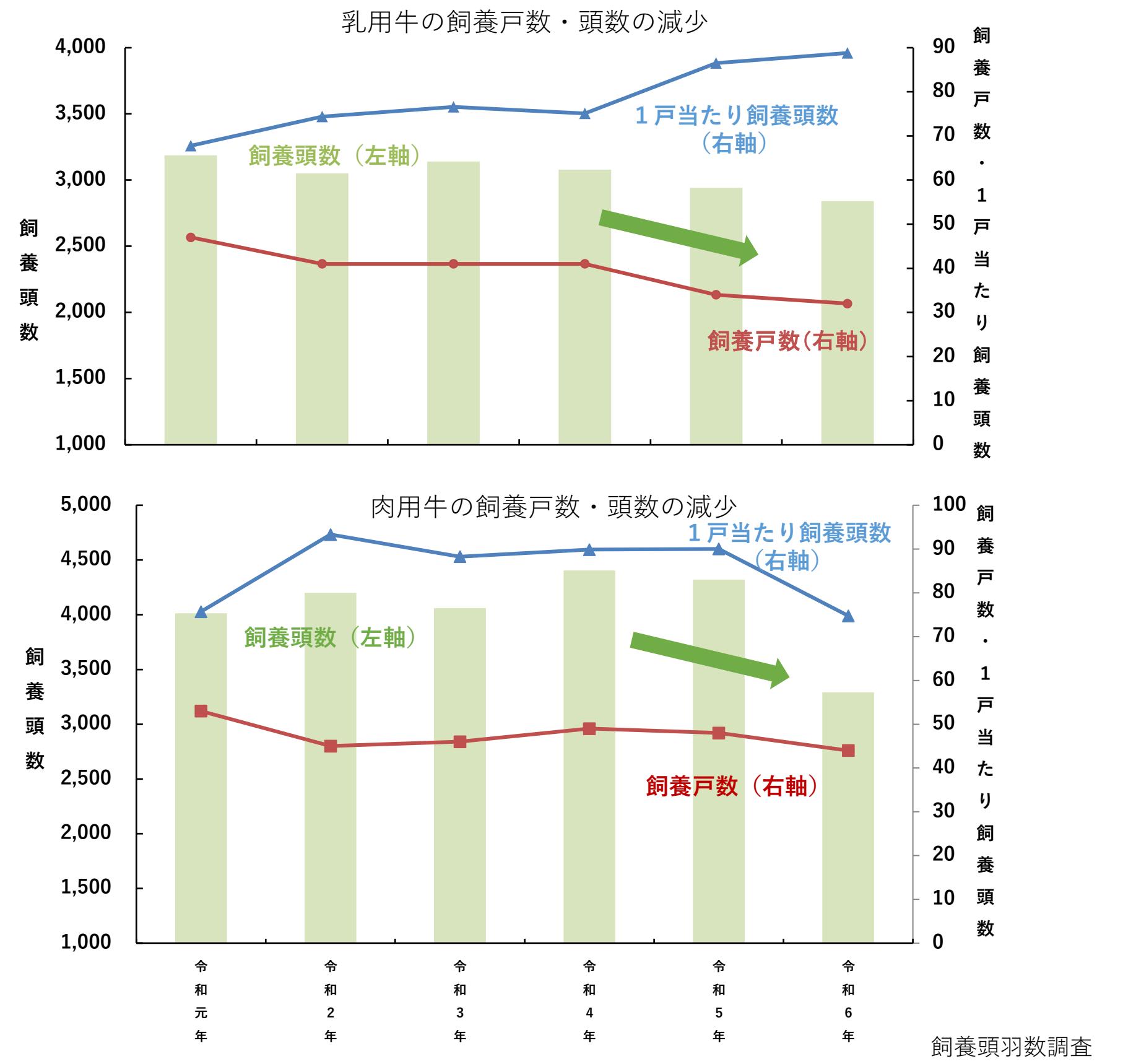
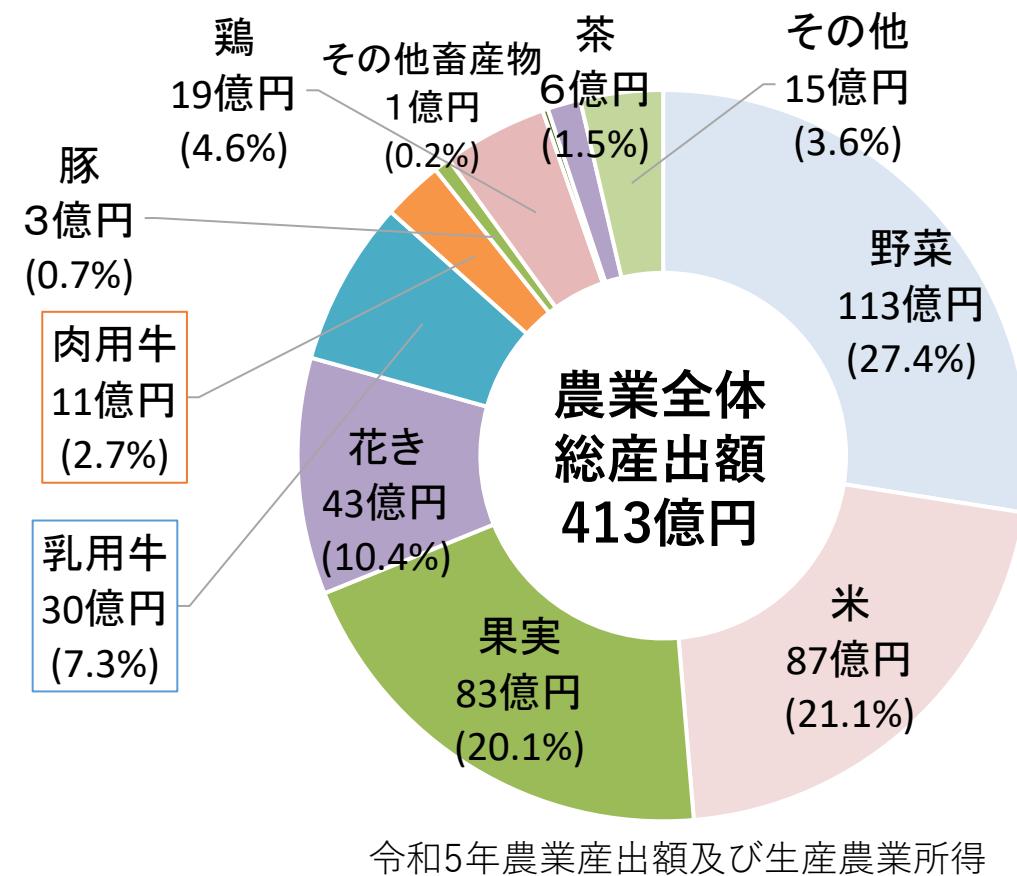
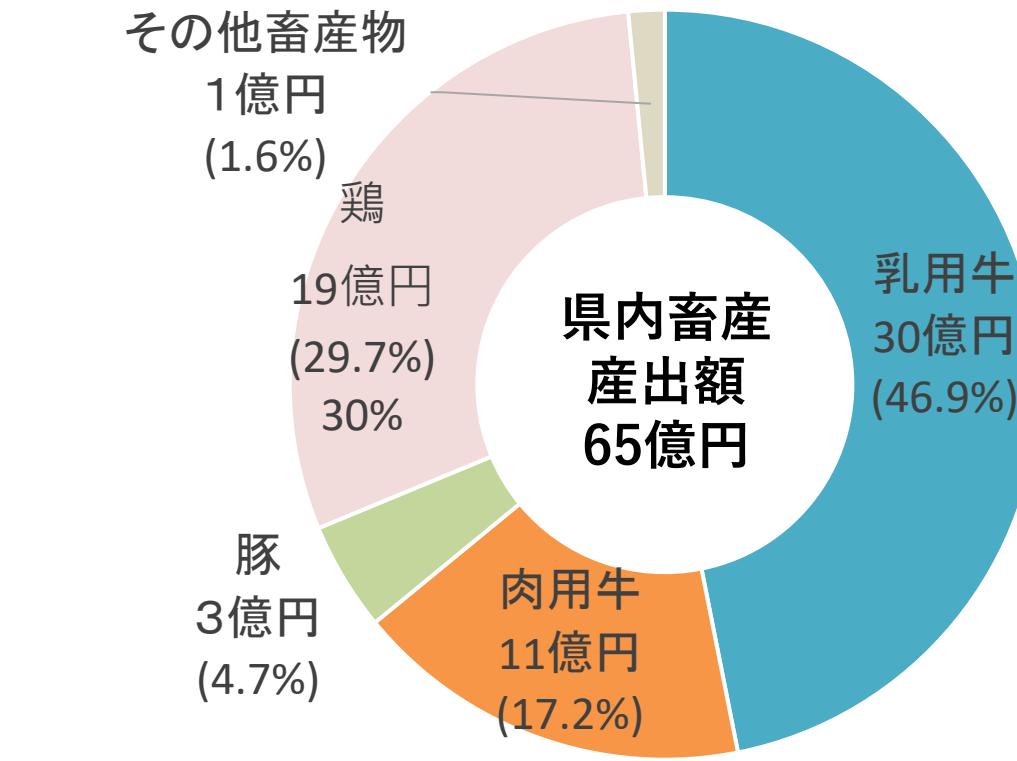
I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

1. 本県の酪農及び肉用牛の需給をめぐる情勢

奈良県酪農・肉用牛
生産近代化計画書
参考資料

<情勢の変化>

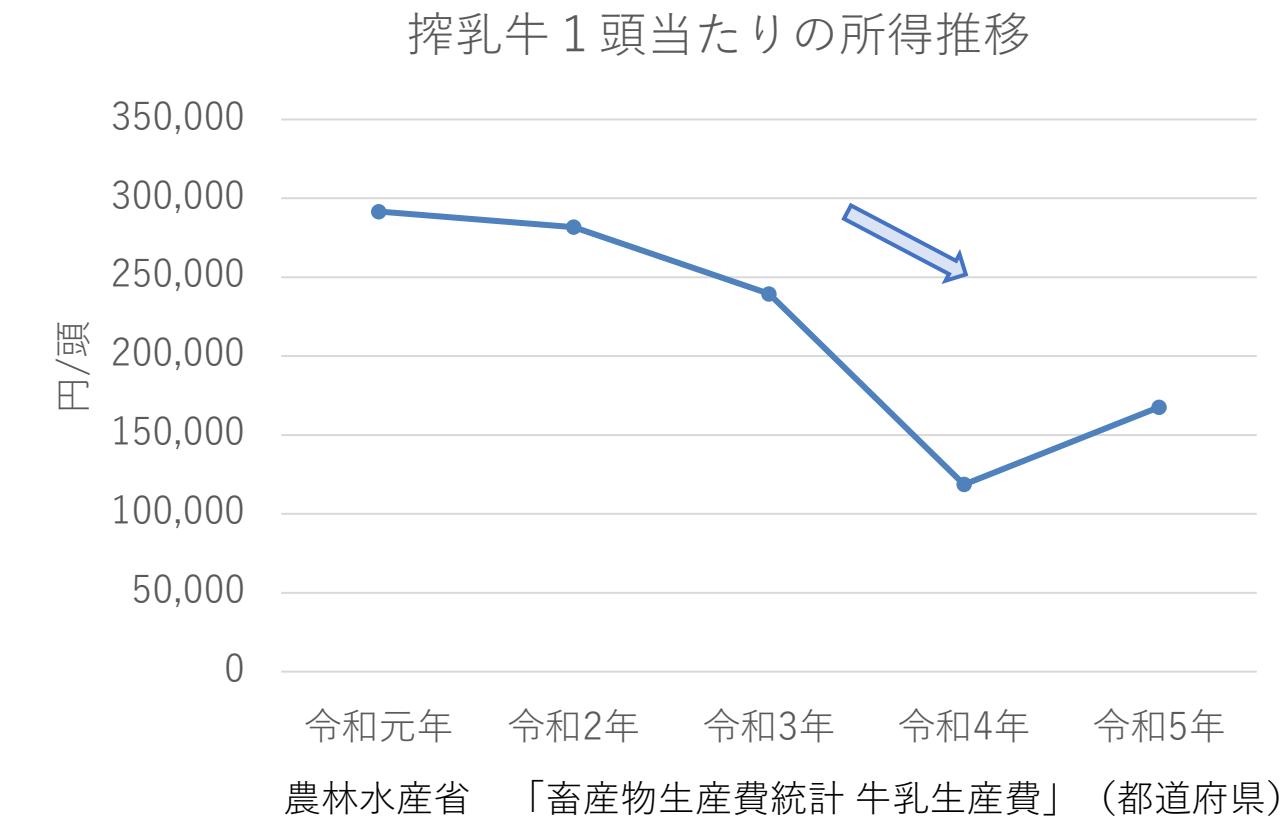
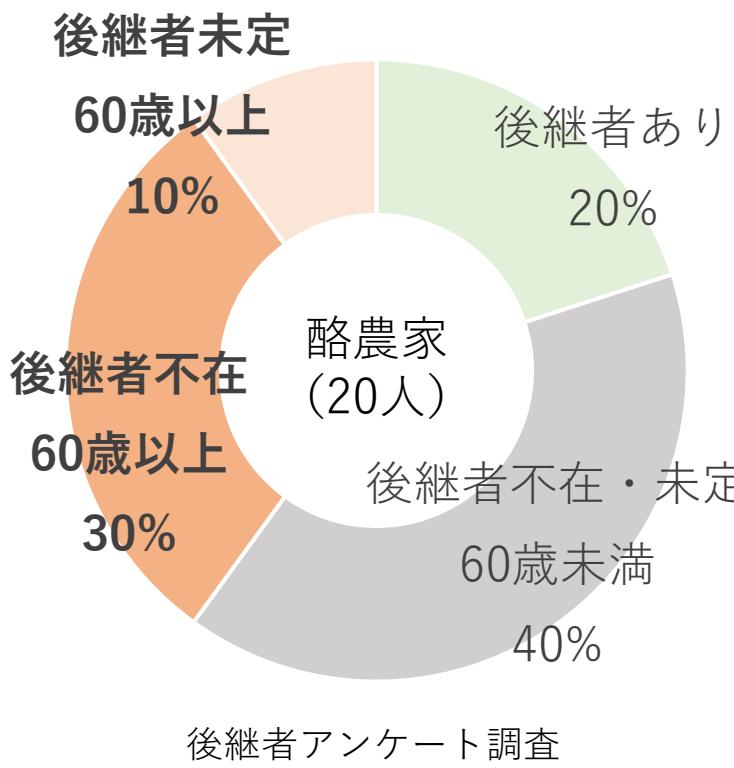
- 酪農及び肉用牛生産は、令和5年の產出額が41億円で、県内畜産產出額の約6割、農業全体の約1割。
- 家族経営主体で、人的負担（高齢化、担い手不足等）及び生産コスト高騰により経営の安定性に深刻な影響。
- 酪農・肉用牛ともに離農が進行し、飼養戸数・頭数はいずれも減少傾向。



2. 持続可能な酪農及び肉用牛生産に向けた取組

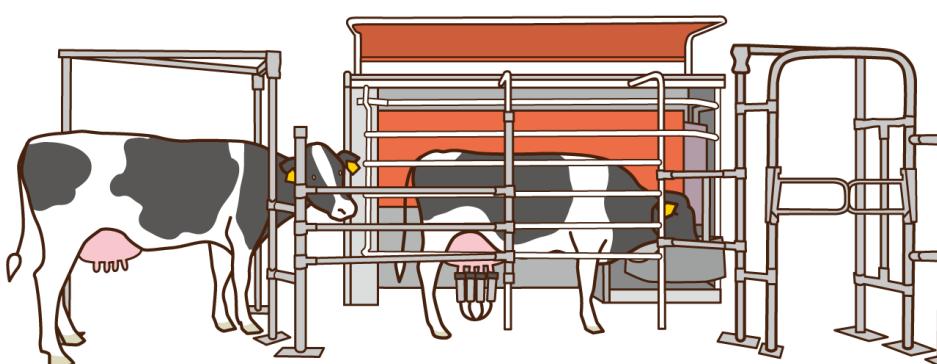
<現状と課題>

- ・経営者の高齢化、担い手・労働力不足
- ・飼料・光熱費等の生産コスト高騰
- ・経営の採算性の低下
- ・暑熱による繁殖成績の低下



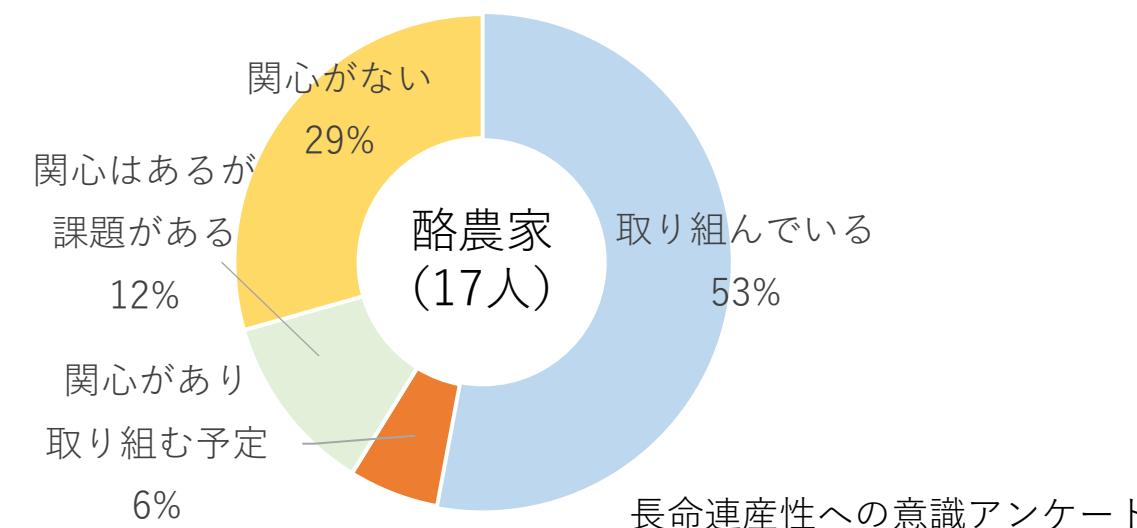
<取組の方向性>

- ・ICT機器やスマート農業技術の活用
- ・夏季における受精卵移植の積極的活用
- ・長命連産性の高い牛群への転換（更新コスト減、安定的な生産）
- ・耕畜連携の推進
- ・経営継承に係る制度整備



© 2020 Japan Dairy Council

スマート農業技術の例（搾乳ロボット）



I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

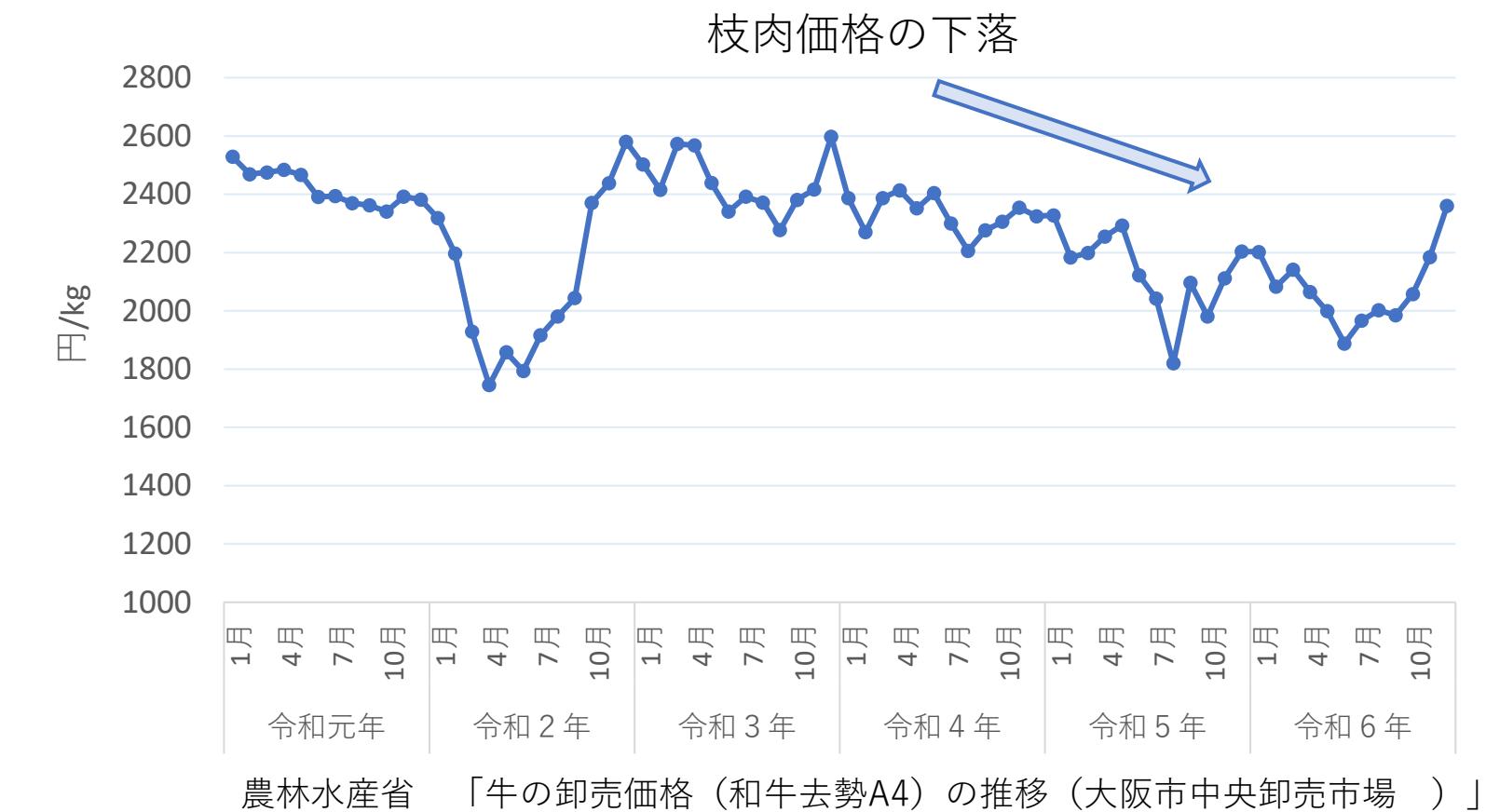
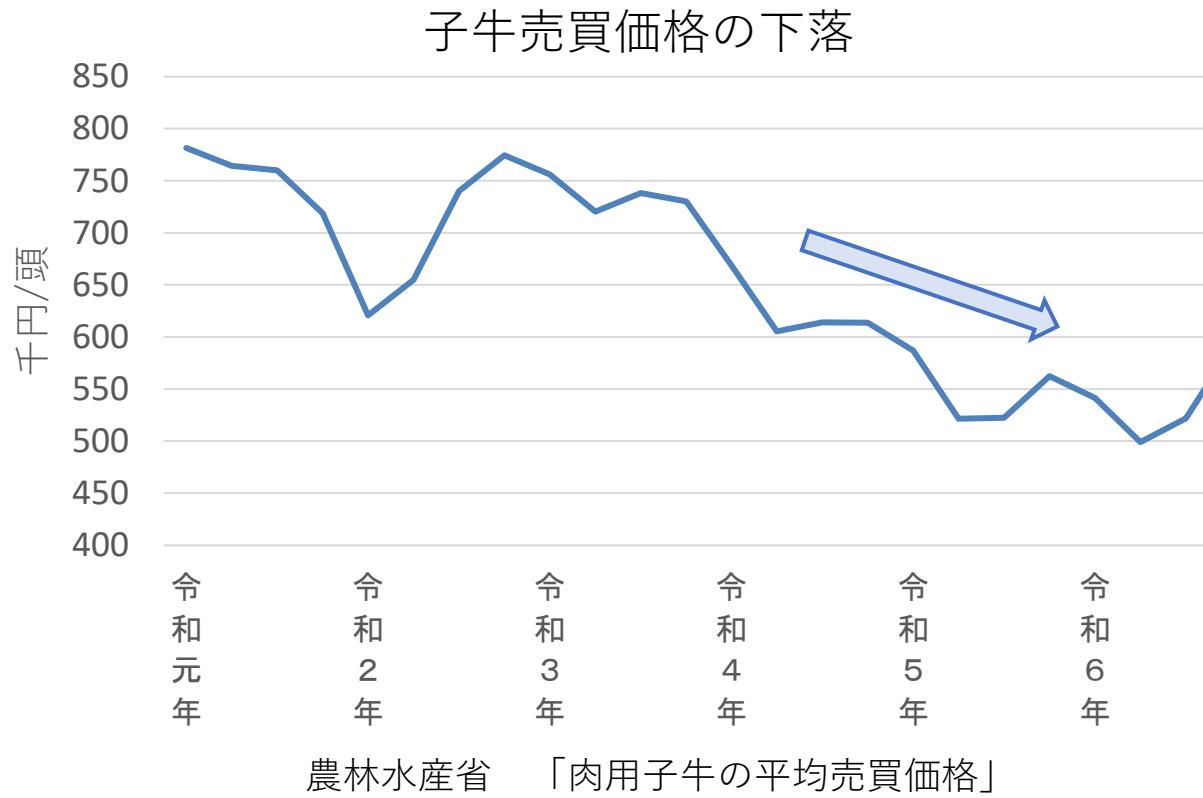
2. 持続可能な酪農及び肉用牛生産に向けた取組

肉用牛経営

<現状と課題>

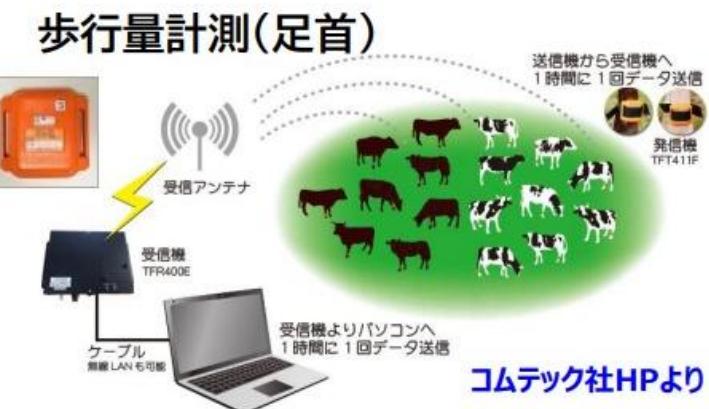
- ・経営者の高齢化、担い手・労働力不足
- ・飼料・光熱費等の生産資材高騰
- ・暑熱による繁殖成績の低下

- ・子牛売買価格・枝肉価格の下落
- ・ブランド牛の生産量の確保



<取組の方向性>

- ・ICT機器やスマート農業技術の活用
- ・夏季における受精卵移植の積極的活用
- ・ブランド牛の認知度向上と差別化による競争力の強化
- ・放牧、耕畜連携の推進
- ・輸出を視野に入れた飼養衛生管理体制の強化



	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
AI	49%	50%	45%	47%
ET	46%	43%	57%	51%

奈良県畜技センター 受胎率 (R4～R6)



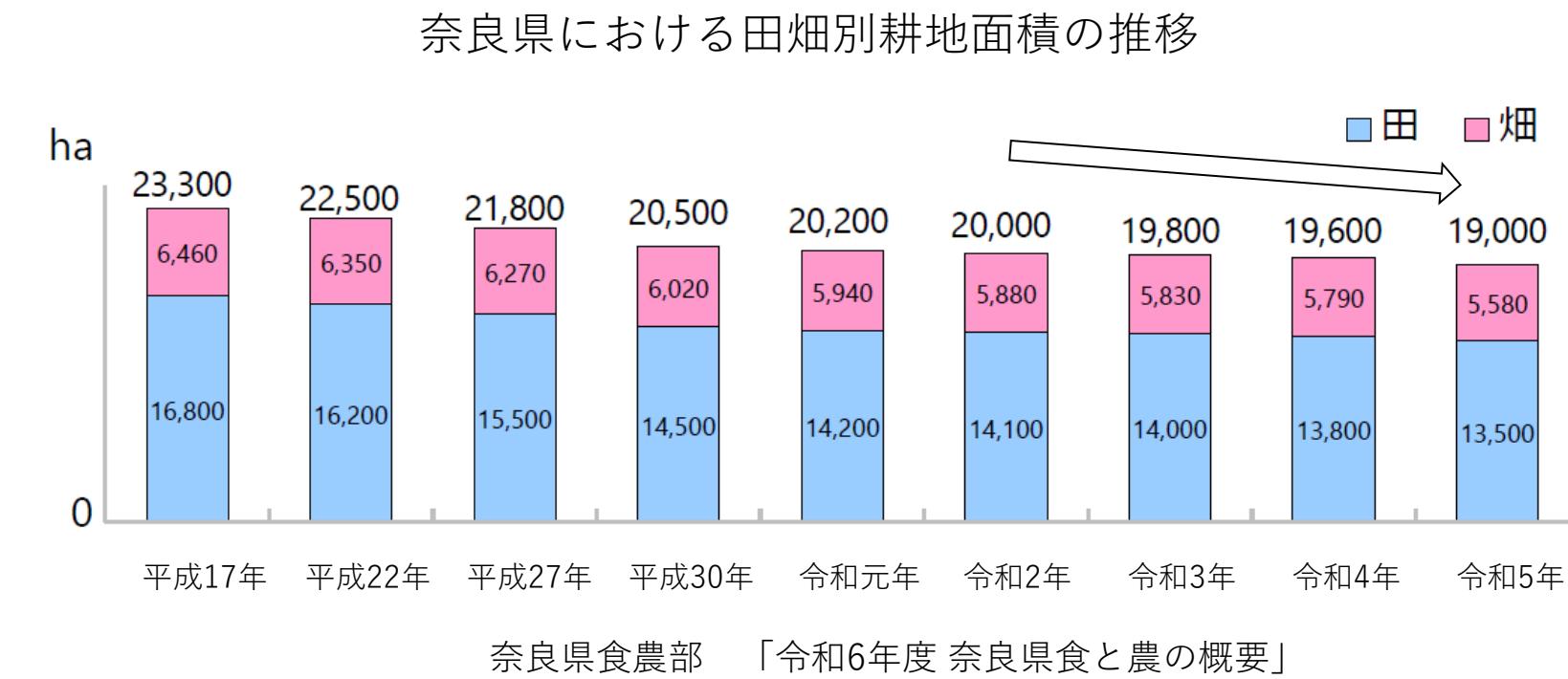
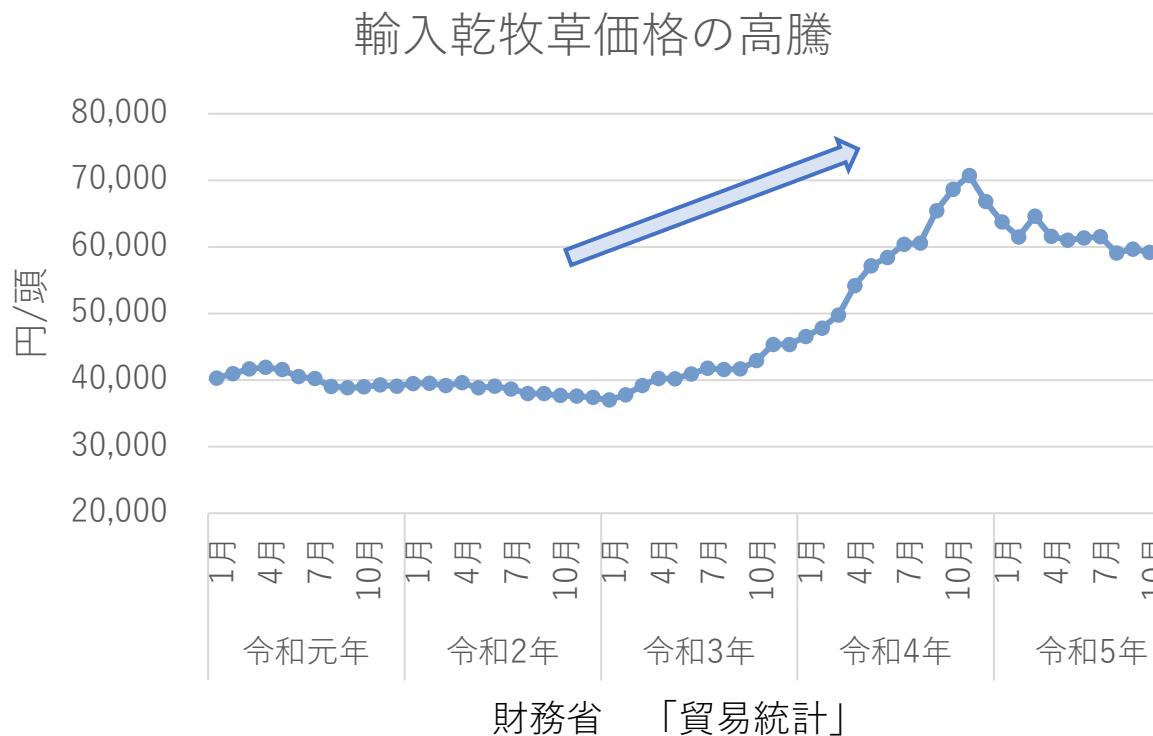
I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

2. 持続可能な酪農及び肉用牛生産に向けた取組

国産飼料の生産・利用

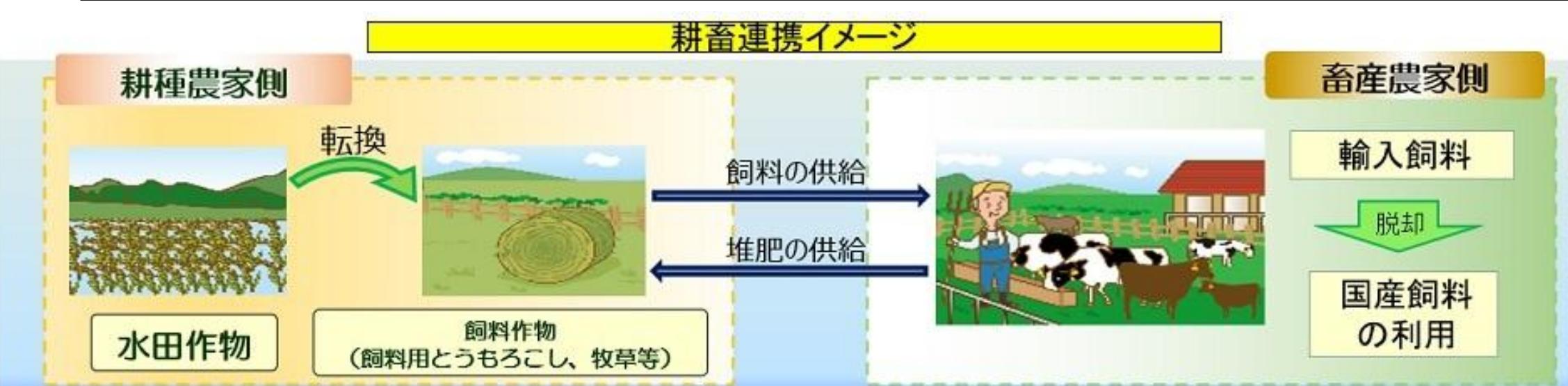
<現状と課題>

- ・為替変動や国際情勢等による輸入飼料価格の高騰
- ・地形条件による機械作業の効率の低さ
- ・耕作面積や労働力の限界
- ・耕畜連携の不十分な進展



<取組の方向性>

- ・多様な耕畜連携のモデル確立の検討
- ・外部作業受託組織の維持、発展
- ・耕作放棄地やみつえ高原牧場等を活用した放牧の推進
- ・現場の実態調査、検証



みつえ高原牧場
(奈良県畜技センター)

2. 持続可能な酪農及び肉用牛生産に向けた取組

関連事項

①担い手の確保、経営力の向上

- ・遊休施設等既存資源の有効活用

②労働力不足への対応

- ・ICT機器、預託牧場、酪農ヘルパー活用による省力化

③家畜衛生対策の充実・強化

- ・飼養衛生管理の徹底
- ・産業動物獣医師の養成・確保

④安全確保の取組の推進

- ・農場衛生・管理体制の高度化

⑤アニマルウェルフェアの推進

- ・放牧利用、ゆとりある飼養管理
- ・農場単位での評価・改善支援

⑥環境と調和のとれた畜産経営

- ・家畜排せつ物の適切な処理と活用、温室効果ガスの削減

⑦自然災害に強い畜産経営の確立

- ・日常的な備えと地域連携体制強化

⑧暑熱対策の推進

- ・物理的対策、栄養設計見直し、血統改良、受精卵移植

⑨経営安定対策等の着実な運用

- ・各種制度活用、コンサル支援

⑩消費者の理解醸成

- ・多様な情報発信手段活用による持続可能な畜産業への理解促進